

2014年7月9日～12日オーストラリアメルボルン市メルボルン国際会議・展示場

ソーシャルワーク、教育及び社会開発に関する合同世界会議 2014 に参加して

藤原正子（一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会理事・福島学院大学）

改定ソーシャルワークのグローバル定義

「ソーシャルワークのグローバル定義」の改定については、国際ソーシャルワーク連盟 (IFSW) 総会および国際ソーシャルワーク教育学校連盟 (IASSW) の総会において14年ぶりに採択されました。

7月10日のIASSW総会では副会長のビシャンティエ・スーポール女史から改定案が提案され、途中、開発途上国からは母国



では独自のソーシャルワーカー養成課程の基準がなく、本定義がそのままソーシャルワーク教育の基準として扱われることになるため「教育」のところに「実践」を追記して欲しいとの意見が出され、別の国では「社会調査についても追記して欲しい」という意見が出される場面があったものの、本文の修正をしないことを議決した上で、無事採択されました。前回の定義の「人びとがその環境と相互に影響し合う接点に介入する」という文言は今回の改定で消え、それについては「社会正義、人権、集団的責任および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす」というところの「多様性の尊重」で国地域の事情に応じて

展開をすることとなりました。北米中心の定義ではなく、まさにグローバル定義になってきたという印象を受けました。「多様性の尊重」に関連して、independence というよりは interdependence だとの説明があり、互いの価値観の違いや自立を尊重し合っの共存の重要性が示されました。今後、地球規模の視野を持ちつつ、かつ地元性を活かしたソーシャルワーク実践を重ねて参りたいと感じ入りました。

メルボルン博物館にて



カールトンガーデンズにある世界遺産展示館は落ち葉の似合う庭園の奥に映え、その裏側に位置するメルボルン博物館は、休暇中の子どもたちで賑わっていました。特筆すべきは心と体の展示コーナーの半分のスペースが「心」について展示されており、脳と心、精神疾患、レジリエンスなどについての展示がされていました。フロイトの夢の場面を覗く小窓は子どもたちが見ることのできる高さに設定されており、「こんな夢は見ないよ！」などとはしゃぐ子どもたちの姿や、夢体験のできるベッドは大盛況

でした。(本当は私も試してみたかったのですが、子ども優先で諦めました。。。) かつての精神科病院の様子のレイアウトや昔の保護室の実物展示、1940年代頃からの向精神薬、電気ショックやロボトミーの手術器具なども展示されていました。そして展示写真の提供元が「ヴィクトリア精神疾患友の会(前家族会)」と書かれたものがあり、市民への精神疾患の理解促進の一環として地元博物館に「心」についての展示コーナーを設ける取組がなされていたということに感心いたしました。

公開講座—アボリジナル当事者らが登壇

テーマ「強い地域、強い将来性—社会的文化的福利の強化 - オーストラリア先住民リーダーたちのパースペクティブ」と題して行われた公開講座では、教育を受けたアボリジナルの人々(※「アボリジニー」という呼び方は差別用語になるそうです)がなぜ未だ不利な条件に置かれているのか、彼らの実践を通して地域力の強みを見出し、双方の利益となるようにすることがすべての人々の平等に向けた戦略になるとのことでした。4人のアボリジナル当事者が登壇



し、自分たちの祖先に誇りを持って育つことが子どもたちに自信をもたらすこと、オーストラリア政府が良かれと思って過去 2

世代にわたり親元から引き離して、白人家庭や児童養護施設でアボリジナルの子どもたちを養育したことは、子どもたちの安心と自信を根こそぎ奪い去る結果となってしまったそうです。演者の1人フェジョキン博士自身、親や祖父母とは暮らせなかったけれども、今日自分の息子たちを手元で育てることができるようになったとのことでした。講座の最後は、世界中からの参加者で会場総立ちとなり、アボリジナル当事者への賞賛の拍手が鳴りやみませんでした。

グループワークセッションにて(IASWG)

4日間で12の分科会会場に分かれて600余の分科会の演題発表、300弱のEポスター発表、6つの基調報告、17のシンポジウム等多彩な発表と意見交換の場となりました。日本人参加者の報告も多数ありました。「グループワークセッション」では筆者が



福島から来たということで参加者からの注目を受け、この間の災害支援におけるグループの力について述べる機会を得ました。

最後に、合同開催された国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)総会においてアジア太平洋地域会長そして世界の第一副会長にこの度任命された日本女子大学の木村真理子先生にお祝いを申し上げます。